

アブサロムの事件の後、エルサレムに戻ったダビデ王は、イスラエルの人にとって、他に見ない理想的な、すばらしい王でした。

ダビデは度々頑なになり、高慢になって罪を犯してしまう弱さを持つ人でしたが、それに気づいたなら、王であるプライドを捨てて、主の懷に飛び込む人。すぐに悔い改めては、主に立ち返ることに熱心な人でした。主なる神はそのような、ダビデを愛されたのです。

今日の学びの要点

主なる神様は罪を嫌われ、怒られ、さばかれる方ですが、それと共に私たちを愛して、赦そうと思って下さる方です。主はダビデを用いられました。罪を犯したと気づいたら、必ず悔い改めるダビデの心を用いて、民を赦す道を開いて下さったのです。

I、民の数を数える (Ⅱサムエル記 24:1～25)

1、この 24 章で、結局 7 万人の民が命を落としています。
何が起きたのでしょうか。

①この出来事の発端は何でしょうか。(Ⅱサムエル記 24:1)

②ダビデはイスラエルとユダの人口を数えたいという、強い思いになりました。
彼の心に何が働いたのででしょうか。(Ⅱサムエル記 24:1)

・ I 歴代誌 21 : 1 を読みましょう。何が、ダビデをそそのかしたとありますか。

・ サタンがダビデに働くことを、誰が許されたという意味でしょうか。

2、ヨアブがってきたとき、ダビデは何と言っていますか。民の数を数えることは、どうして罪になるのでしょうか。(Ⅱサムエル記 24:10)

①主に対する不信頼： 主に頼らなくても、兵の数が多いので大丈夫と思う心が生まれる

②民を私物化する思い： ダビデは、神様の代理でイスラエルを預かる王とされている。
ダビデの所有物ではない

3、ダビデ王の悔い改めの祈りに、預言者ガドが主からの、3つの選択を伝えます。それはどのような事でしょうか。（Ⅱサムエル記 24:13）

4、ダビデは何と答えたでしょうか。（Ⅱサムエル記 24:14）

Ⅱ、アラウナの打ち場に祭壇を築く （Ⅱサムエル記 24:16～25）

1、ダビデの目が開かれ、御使いが民を打っているのを見たとき、何と言いましたか。（Ⅱサムエル記 24:17）

2、ダビデが、主に祈ったとき、預言者ガドは何と言いましたか。
（Ⅱサムエル記 24:18）

①打ち場とは何をするところですか。（Ⅱ歴 3:1—アラウナとオルナンは同一人物）

・打ち場：脱穀された小麦を、風で飛ばし、殻と実に分けるために用意された場所

②その打ち場で御使いのしていた事は何でしょうか。

・民の1人1人を打って、ふるい分けていた

③ダビデがそこに祭壇を築いて祈る理由はどのようなことでしょうか。

・ダビデ王とイスラエルの民は一体です。

主は罪を認めたダビデを赦すそうとされる → 民を赦すことになる

・ダビデは主イエスの雛形です。ダビデは全焼の捧げ物を献げ、祈りました。

私たちの罪のために、主イエス自らが捧げ物になり、十字架で神の前に^{なだ}宥めの
供え物となって下さった。

- ・ソロモンはそこに神殿を建てた。（Ⅱ歴 3:1）
 - ・その場所は、アブラハムがイサクを献げたモリヤの山